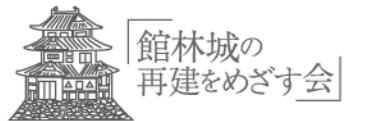


## Letter from Tatebayashi Castle Town

バックナンバーのご案内(年2回・春・秋発行)

- 創刊号 2019年2月 塙場町 特集  
 2号 2019年10月 日光脇往還 特集  
 3号 2020年4月 鷹匠町 特集  
 4号 2020年10月 大名小路・裏宿 特集  
 5号 2021年5月 紺屋町・谷越町 特集  
 6号 2021年10月 堅町・材木町 特集

バックナンバーは  
Webで公開しています。

館林城の  
再建をめざす会

## “よみがえる館林城下町”

次号(8号)の特集

## 目車町(めぐるま)・木挽町(こびき)

2022年10月発行予定

柳原康政移封(1590)以前からの古道が城下町に取り込まれ、目車町と木挽町になった。館林城下町の西端にあたる。目車町の起点である小泉口は中仙道へ通じる交通の要所。目車町は商人町、木挽町は職人町として発展した。

今号は城下町の東南角地、風光明媚、日当たり良好、町人町と侍町の接点…等々。魅力に富んだエリアであり城下町の面影が今でも残る町である。

市では歴史の小径として観光に役立てようとしている。昭和30年代の賑わいを知る私としては、城下町の景観が悲しいほど失われているのが現状だ。何とかしないと…。城下町の景観を取り戻す活動として美容室ウェイヴ(鍛冶町)の外観を修景した。

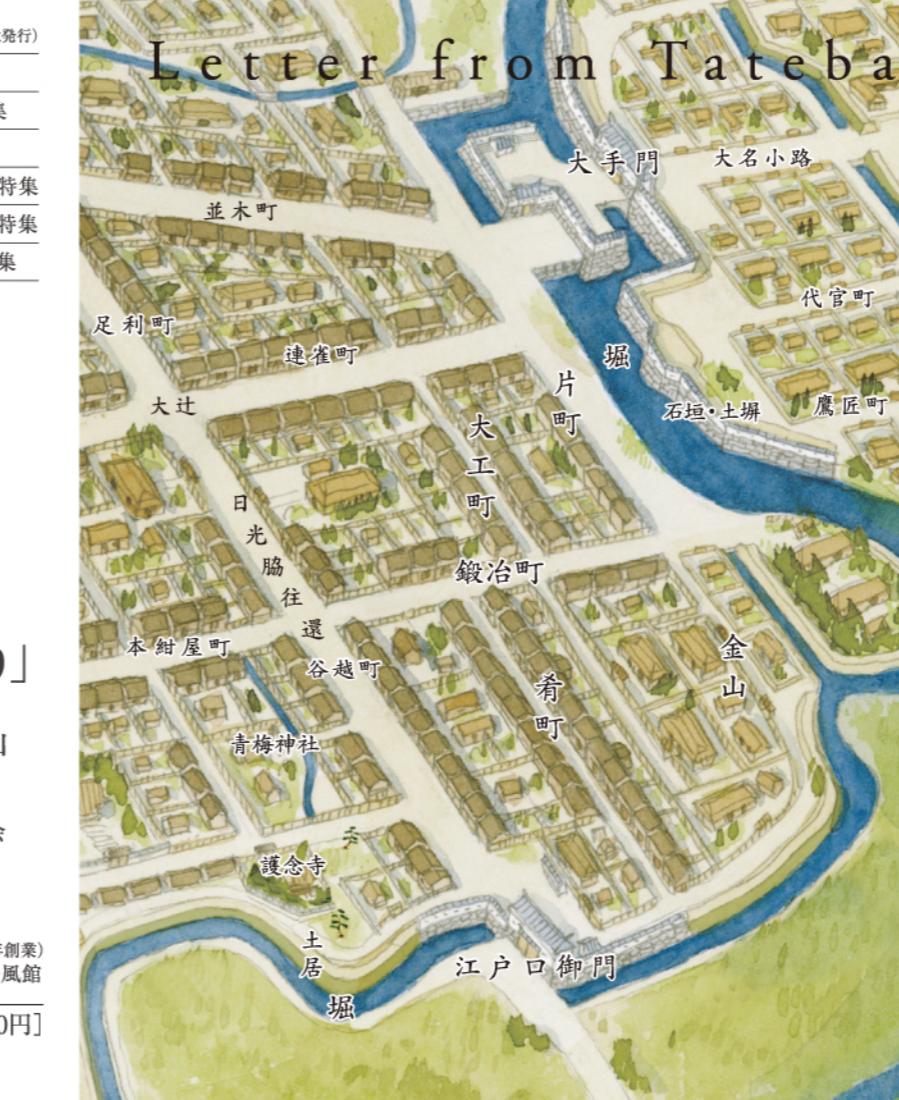
ぜひご覧下さい。 令和4年5月 館林城の再建をめざす会・会長 田中茂雄

次号予告

編集後記

※前回100円でお買い上げの皆さまへ感謝。寄附もいただきお礼申し上げます! 本誌印刷費に充当しました。今回もよろしくお願ひします。  
 [お礼]よこつか花店、みくに書房さま、配布協力ありがとうございました。真中病院さまご寄付ありがとうございます。

[定価:100円]



## 館林城下町だより

2022年5月 7号

さかなちょう かじょう かなやま  
 特集: 看町・鍛冶町・金山  
 大工町・片町 (南側)



『二業見番』  
 看町のシンボル!  
 名称は館林二業見番組合事務所。  
 昭和13年に建設される。  
 二業とは料理業と芸妓業の二業。  
 2階の舞台が見事。  
 見番として使われたのはわずか6年!

# 看町・大工町・鍛冶町・金山

Sakanacyo Daikucyo Kajicyo Katamachi Kanaya

(南半分)

さかな かじ だいく  
城下町の職人町としての看町・鍛冶町・大工町。  
かた  
城内と面した商人町の片町。  
かなやま  
城下町内にありながら侍町だった金山。

## [看町とは]

花街のイメージがあるが本来は魚商の居住する商人町。  
料理屋が発展し花街として賑わいのある町になったのは昭和から。  
それまでは青梅神社周辺が花街である。  
ともに表の日光脇往還から一本隔たった裏道(横町)である。

[鍛冶町とは] (※全国81の城下町で鍛冶町があるのは47町)  
鍛冶職が居住した町。綱吉時代(延宝9年)11名の職人が集まっていた。城下町なので刀鍛冶も活躍したに違いない。  
鍛冶職の守り神である金山神社:金山毘古命(かなやまひこのみこと)もある。

[大工町とは] (※全国81の城下町で大工町は31町ある)  
榎原康政が城下町を築いた頃から大工職の需要が旺盛だった。  
綱吉時代になども同町19戸の内、17戸が大工職だ。  
まさに大工町。

## [金山とは]

鍛冶職が祀った金山神社の南東周辺は与力または同心の組屋敷が建ち並ぶ侍町だった。町役人の支配外エリア。  
金山の町名は江戸時代ではなく、明治期からの地名。

【江戸時代:看町・鍛冶町・大工町の戸数】

綱吉時代(延宝2年1674年)

看町36戸 鍛冶町25戸 大工町19戸

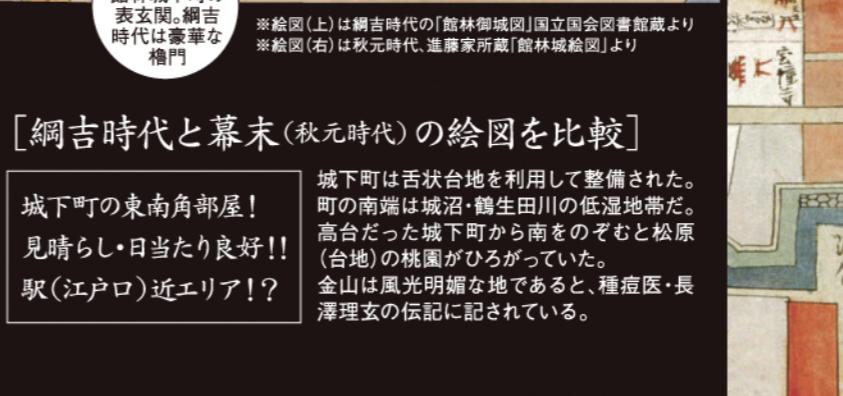
幕末(嘉永元年1848年)

看町24戸 鍛冶町28戸 大工町18戸

※看町のみ3割以上も戸数が減っている。

## [片町とは]

右の絵図を見ればわかる。  
道の片側(西側)だけの町なので片町。  
道の東側は明地と堀。  
土居(石垣)と土塀で城内を守っていた。



## [綱吉時代と幕末(秋元時代)の絵図を比較]

城下町の東南角部屋!  
見晴らし・日当たり良好!!  
駅(江戸口)近エリア!?

城下町は舌状台地を利用して整備された。  
町の南端は城沼・鶴生田川の低湿地帯だ。  
高台だった城下町から南をのぞむと松原(台地)の桃園がひろがっていた。  
金山は風光明媚な地であると、種痘医・長澤理玄の伝記に記されている。

## 【青龍神社の変遷】

絵図を見ればわかる、大きな神社だった。

綱吉時代の絵図には青龍=清瀧と記されている。別当寺は福寿院(秋元時代の絵図に記載)。

徳川綱吉の生母・桂昌院は青龍神社を信仰したという。綱吉より10石の朱印地を下賜され、江戸時代末期まで続いた。境内の井戸は青龍の井戸と呼ばれ、旧暦7月10日の縁日に井戸水(靈水)を参拝客にふるまう習わしがあった。



幕末(1865頃)



1

2

# 明治～昭和

## 職人町と侍町が共存する町の変遷を絵図で見る。

徳川四天王・榎原康政は文禄4年(1595)周囲を堀と土居で囲った惣構え(そうがまえ)の館林城(城内/城下)を完成させた! 今号の特集は城下町の特徴が色濃く残る町をご紹介。 それは町屋と武家地が共存していたエリアだ。 町人町は限られた敷地に町家が密集して建ち並び、 侍町は広い敷地に長屋形式(与力や同心の屋敷)の家が並ぶ。 絵図をみればよく理解できるはず。

城下町の商家の趣を  
今に伝える建築。

和泉屋(外池商店)

【醸造】鍛冶町(本町二丁目)

江戸時代中期創業の造り酒屋(屋号「和泉屋」)で酒・味噌・醤油の醸造業を営んでいた。ルーツは近江商人。江戸時代の蔵や昭和4年に建てられた店舗が今も残る。



↑和泉屋上棟式 昭和4年(1929)  
館林市史別巻「写真で見る館林」より

→「和泉屋」より  
福禄ブランドの醤油



### 館林城下町(明治18年)



江戸口は城門なので形状が枠形。  
道路が直進していない。  
明治20年、直線的道路に改修。

陸軍迅速測図(近代測量術による初の館林地図)

### 館林城下町(昭和22年)



城沼耕地整理事業(大正15～昭和2)で  
造られた道路(3号道路)。左の細い道が  
江戸時代・城下町の道だ。

迅速測図(明治18)と米軍空撮(昭和22)で記録され、  
現在まで続く建物は肴町の魚恵本店。貴重だ。

#### 魚恵本店(うおえ)

[寿司]肴町(本町二丁目)

建物の築年は不明だが明治初期。  
初めは医者の家として建てられた。そ  
の後、萩原さんの先々代が仕出し料理  
と鮨の店として改装し営業。営業当初  
は寿司カウンターはなくて量部屋で  
座って寿司をぎっていたという。  
先代の店主・恵三郎氏は館林の景色  
を写真に記録した写真家としても有  
名。いまでも多くの写真が町の歴史を  
語る資料として活用されている。



【館林に鮨店が多い理由】

明治40年、東武線の開通により  
新鮮なネタが入手できたから。  
「始電電車に乗り築地へ、鮮魚を仕入れ  
昼前に館林にもどれた。美味しい鮨を  
昼から提供できた」鮨店が増えた理由  
のひとつ。(魚恵ご主人に伺った話)



左の建物は講堂。戦時中、この中に戦闘機の組み立てを  
おこなっていたという!(写真は昭和39年卒業アルバムより)



校長室に展示されている  
美智子さまの作品  
(「六梅」は年梅組のこと) 4



# お散歩 マップ

## 看町・大工町・片町 (南半分)

## 看町・大工町・片町 (北半分)



## 山本パン店を覚えてますか？ 同級生のパン屋(昭和31年開店)さんをご紹介。

南小・二中の同級生・山本さんの家は肴町で人気のパン屋。山本さんとお姉さんに店の歴史を伺い、貴重な写真をお借りした。

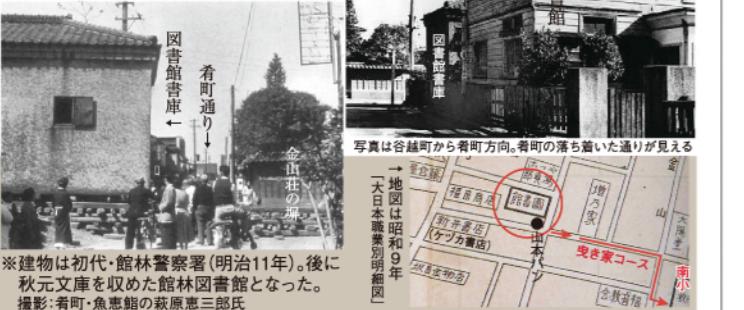
写真は昭和31年、新築開店時の記念写真。中央が店主の山本さんで、パン修行は著名な新宿・中村屋。さらに上野の店でも修行したという。山本パンは中村屋が味のルーツだった。館林で最初のクリスマスケーキを



↑開店を盛り上げるチンドン屋(佐野の業者)さんと記念撮影。

### [肴町の歴史] 図書館の曳き家

山本パン店開店の前年、隣接する図書館を南小の校庭へ移設。町の話題となる。



※建物は初代・館林警察署(明治11年)。後に秋元文庫を収めた館林図書館となつた。  
撮影:肴町・魚恵館の萩原憲三郎氏

## 肴町の映画館「館林クラブ」 花街・肴町の娯楽を支えた映画館

売り出しのもこだ。ケーキは飛ぶよう売れたという。両親と姉妹四人が店を手伝い支えていた。懐かしい昭和の個人商店だった。(田中)

日本映画全盛時代の昭和30年代。館林の映画館は4館あった。肴町の館林クラブ(帝国館)、片町の館林キネマ(電気館)。そして鷹匠町の大映

劇場(富貴座)と隣接していた洋画の清流だ。映画館が消えて久しい館林だが、かつてはアミューズメントタウンでもあった。



館林クラブ

今から100年前、大正11年(1922)に建てられた。劇場名は「帝国館」で経営者は大津喜一郎。後に「館林クラブ」と改称された。昭和13年、経営は館林映画興行株式会社に移りそのまま直営館となった。昭和30年代は東映の時代劇を主に上映していた。

## 城下町のインフラ整備をになう 職人町=大工町・鍛冶町

館林城下町は天正18年、柳原康政の城造りから始まる。普請工事を担うのは職人だ。その代表が大工。彼らの住居地が大工町であり、関連業種の鍛冶町が隣に連なる。材木町と木挽町が隣接するのも同じ理由。

商人町は目抜き通りだが職人町は大通りに面する必要ないので裏通りだ。

写真は谷越町から肴町方向。肴町の落ち塗いた通りが見える  
※建物は初代・館林警察署(明治11年)。後に秋元文庫を収めた館林図書館となつた。  
撮影:肴町・魚恵館の萩原憲三郎氏

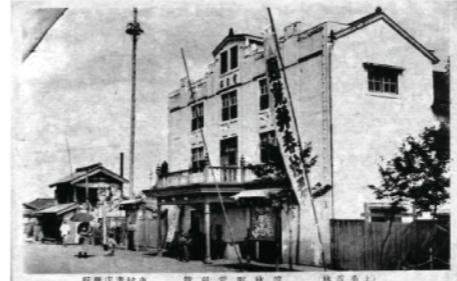
大工16人 鍛冶12人 紺屋 9人  
左官 8人 叠・桶・指物 7人  
板屋根師・籠屋 4人 研師・塗師 3人  
※大工と鍛冶職人が多いのがわかる  
井上家→秋元家への引継書「町方引渡帳」より



## 片町の映画館「館林キネマ」 常設映画館として館林初!

大正7年、館林初の常設映画館である電気館がオープン。当時の映画は弁士が説明する無声映画で、いわゆる活動写真だ。後に館林キネマと改

称した歴史ある映画館。なんと2階客席は椅子ではなく、ゴザが敷いてある舟席タイプだった。昭和30年代は松竹映画を上映していた。(田中)



電気館

大正7年(1918)に開館。経営者は伊勢崎の赤石武一郎。外観は大正モダンを感じさせる偽洋館スタイル、雰囲気のあるお洒落な建築だった。写真は絵はがき「館林町電気館」中村書店発行より



館林キネマ

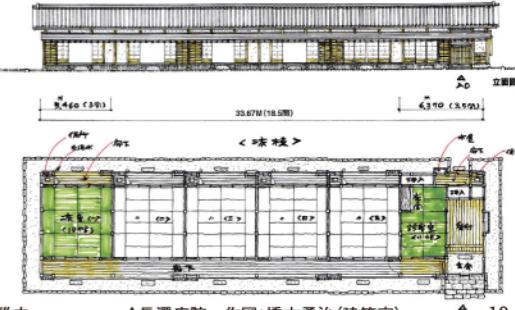
電気館から館林キネマと改称。こどもの頃、2階の舟席から映画「青い山脉(日活1963年版)」を観た記憶がある。

【写真の時代背景を探る】入口の柱に上映ポスターが貼ってある。拡大すると、「広島仁義」(東映・松方弘樹主演)と読めた。制作年は昭和51年(1976)。写真的撮影年が特定できた。(市史別冊「写真で見る館林」より) 撮影中山健一氏

## 長澤理玄のホームグランドは金山。 病院(入院設備がある病院!)は金山の地に。

### 長澤理玄・年表

文化12年 (1815)	3月12日山形城下横町口生まれ (父・藩医・長澤周玄)
弘化3年 (1846)	藩主の国替えにより館林へ (32歳)
嘉永2年 (1849)	種痘接種法を学ぶため江戸へ (35歳)
嘉永4年 (1851)	種痘接種法を館林へ持ち帰る (37歳)
嘉永4年 (1851)	館林で最初の種痘を実施 (上州初の快挙)
嘉永5年 (1852)	春、山形へ。漆山で種痘を広める。
嘉永5年 (1852)	10月、館林へもどり、藩主の協力で本格的に種痘接種を開始
安政4年 (1857)	6月、藩校「造士書院」の医学頭取に就任。(43歳)
万延元年 (1860)	藩主より金山に7反の土地を譲渡。自費で病院を建設。(46歳)
文久元年 (1861)	病院は1~2棟の長屋形式。(下図)運営が軌道にのる。
文久3年 (1863)	1月、脳溢血により死去。(49歳) お墓は館林市朝日町・円教寺



↑イラスト:泉 雅史

↑長澤病院 作図:橋本勇治(建築家)

# 鍛冶町にあったJAZZの名店『オリーブカンパニー』。

1979年4月オープン。東京・吉祥寺のJAZZ&カフェ文化がそのまま移植された店だ。

同級生・小松原くんの夢が詰まったJAZZの店『オリーブカンパニー』。1970・80年代の吉祥寺カルチャー全盛時に活躍した吉祥寺の若大将こと野口伊織氏のもとで修行した小松原くんのお店だ。吉祥寺文化そのものを館林に持ち込み、館林の若者のハートをわしづかみにした店(愛称・オリカン)となったが、今は無い。今も通用する店舗設計は福井英晴氏の作品。素晴らしい!(田中)



オーナーの小松原君(オープン当時)。



福井氏設計、吉祥寺の名店「サムタイム」(1975年)の店長を務めた小松原くん。野口伊織氏の直弟子だ。



ロゴマークがプリントされたお洒落なマッチ→



トーネット様式の曲木椅子とテーブル。本物のレンガを積んだ壁面。高級オーディオとピアノ。居心地の良い店舗設計は福井氏の真骨頂。

# オリーブカンパニーから美容室ウェイヴへ。町屋は進化する!

城下町を再生する活動の最新事例を(今年1月完成)ご紹介。ご覧下さい。

館林が誇れる城下町の歴史と景観を取り戻すため。できることから始めている。2018年、毛塚邸(塙場町)保存活動。2022年、美容室ウェイヴ(鍛冶町)修景活動です。そのノウハウを活かして城下町の再生をめざします。(田中)



2022年 美容室ウェイヴ

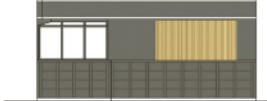


歴史的街並み景観創出補助制度が活用されました。



改修前

改修後

荒島敏彦(建築士)  
小松原満(美容室経営)  
田中茂雄(デザイナー)

美しい  
城下町で暮らしたい!

\*  
夢を形にして  
ご提案

城下町再生研究所

城下町再生をお手伝い(旧・町屋再生研究所)  
**城下町再生研究所**

2022年  
活動開始

共同代表

市が進める「歴史の小径」に面した補助金事業(※)について実績あり。利用方法をご相談ください。  
相談窓口:美容室ウェイヴ(小松原) ※歴史的街並み景観創出補助制度

## レポート①

城下町に残された文化遺産を活用し町の魅力をアップします！

企画:館林城の再建をめざす会

### ミニタウン誌『館林城下町だより』6号

2021年11月1日発行 (16頁、1200部制作)

館林城下町の中心は大辻。約200年前(松平時代)に消防施設である火の見櫓「箱火の見」が大辻に建てられた。

特別提案として「箱火の見」再建と町屋再生を城下町復活のシンボルにするプロジェクト「城下町ひろば」構想を提案した。

中心市街地活性化案です。ぜひお読みください。(田中)

#### 特集:豊町(たつまち)・材木町



#### 館林城下町だより

緊急提案  
「城下町ひろば」  
計画  
主催:豊町・材木町

※在庫あり。080-4406-1600田中まで

バックナンバーサイトを作りました  
創刊号からのバックナンバーが読める



**城下町ひろば**

城下町館林を復活させる地域交流施設の提案

「城下町ひろば」5つのコンセプト

- 城下町として重要な町並みの保存再建!
- 失われた中心市街地にシンボルを再建!
- 郷土の歴史を語りにしめ体験する施設!
- 町に交流が生まれる人が詰まる活性施設!
- 城下町の歴史と伝統を伝える観光に役立つ施設!

「城下町ひろば」いあきつ

この構造は、城下町の歴史と伝統を守るために、古き良き日本文化を復活させ、また、現代の技術を駆使して、安全で快適な空間を提供するためのものである。また、この構造は、地域の資源や文化を活用して、地域活性化や観光振興に貢献するためのものである。また、この構造は、地域の歴史や文化を学ぶための教育施設として機能する。また、この構造は、地域の資源や文化を活用して、地域活性化や観光振興に貢献するためのものである。また、この構造は、地域の歴史や文化を学ぶための教育施設として機能する。

新聞記事(深山記者)をご紹介。 2021年11月22日発行 上毛新聞

**城下の櫓 再建構想説明**

市民グループが地元に

館林市では、城下の櫓の再建構想について、市民グループが地元に説明会を開催した。この構造は、城下町の歴史と伝統を守るために、古き良き日本文化を復活させ、また、現代の技術を駆使して、安全で快適な空間を提供するためのものである。また、この構造は、地域の資源や文化を活用して、地域活性化や観光振興に貢献するためのものである。また、この構造は、地域の歴史や文化を学ぶための教育施設として機能する。また、この構造は、地域の資源や文化を活用して、地域活性化や観光振興に貢献するためのものである。また、この構造は、地域の歴史や文化を学ぶための教育施設として機能する。

新学期になり空手を始める子供たち増えます。  
会員は館林だけでなく、足利、千代田、明和、板倉からも。  
武道の精神で元気なこどもが育っています！

生徒募集 まずは体験から 詳しくは優風館サイトで。

THE JOMO SHINBUN 2021年12月20日

**館林の中心街再生**

近城下町並みや近代建築活用

市長歴史生かし動く

▲2021年12月20日発行 上毛新聞 1面トップ

## レポート②

### 「城下町ひろば」構想、説明会を開催！

10月30日(土)15時～ 会場:谷越会館(青梅神社境内)

地元商店主、住民、区長、市議等約20名が集まつた。わかりやすく伝えるためプロジェクトを用意。大きなスクリーンと画像で構想を提案した。

ひろば構想のお手本となった四国・三好市地域交流施設の事例や先行して

いる桐生市の「重伝建」事業も詳しく紹介。また、これまでの町屋再生プロジェクト(塙場町・木塚邸の曳き家保存)や消失した町屋建築(魚惣本店、小室商店、歴史的看板建築等)の記録も紹介できた。

新聞記事(深山記者)をご紹介。 2021年11月22日発行 上毛新聞

**城下の櫓 再建構想説明**

市民グループが地元に

館林市では、城下の櫓の再建構想について、市民グループが地元に説明会を開催した。この構造は、城下町の歴史と伝統を守るために、古き良き日本文化を復活させ、また、現代の技術を駆使して、安全で快適な空間を提供するためのものである。また、この構造は、地域の資源や文化を活用して、地域活性化や観光振興に貢献するためのものである。また、この構造は、地域の歴史や文化を学ぶための教育施設として機能する。また、この構造は、地域の資源や文化を活用して、地域活性化や観光振興に貢献するためのものである。また、この構造は、地域の歴史や文化を学ぶための教育施設として機能する。

新学期になり空手を始める子供たち増えます。  
会員は館林だけでなく、足利、千代田、明和、板倉からも。  
武道の精神で元気なこどもが育っています！

生徒募集 まずは体験から 詳しくは優風館サイトで。

THE JOMO SHINBUN 2021年12月20日

**館林の中心街再生**

近城下町並みや近代建築活用

市長歴史生かし動く

▲2021年12月20日発行 上毛新聞 1面トップ

## レポート③

### 中心市街地再生の動きが新聞記事に。

12月20日(月)上毛新聞1面で大きく紹介されました。

日光脇往還道路拡張計画により長年親しまれた多くの商店が撤去され空き地が広がり、町の景観が変わってしまった。

この状況下、館林が誇る歴史を活かした町の再生活動が市民から生まれている。

記事は中心街の変化と再生活動を丁寧に取材し、まとめている。

THE JOMO SHINBUN 2021年12月20日

**館林の中心街再生**

近城下町並みや近代建築活用

市長歴史生かし動く

▲2021年12月20日発行 上毛新聞 1面トップ

### 館林のこどもを鍛える！



優風館

空優会 館林支部  
優風館 空手道場  
館長:田中茂雄  
小桑原町855-1

